

平成 21 年 2 月 5 日

各 位

会 社 名 株式会社デジタルガレージ  
 代表者名 代表取締役CEO 林 郁  
 ( J A S D A Q ・ コード 4 8 1 9 )  
 (URL <http://www.garage.co.jp/>)  
 問い合わせ先 取締役 経営管理本部長  
 櫻井 光太  
 T E L 0 3 - 5 4 6 5 - 7 7 4 7

平成 21 年 6 月期第 2 四半期末の投資有価証券評価損、  
 連結財務諸表における特別損失の発生及び  
 個別財務諸表における特別利益及び特別損失の発生並びに  
 平成 21 年 6 月期第 2 四半期累計期間（連結・個別）業績予想の修正に関するお知らせ

「その他有価証券」に区分される保有有価証券のうち、時価あるいは実質価額が著しく下落し、その回復があると認められないものにつきまして、平成 21 年 6 月期第 2 四半期におきまして減損処理による投資有価証券評価損を計上する必要が生じたのでお知らせいたします。

また、平成 21 年 6 月期第 2 四半期累計期間におきまして、下記のとおり特別利益及び特別損失が発生することとなりましたので、その概要をお知らせするとともに、平成 20 年 10 月 29 日に発表いたしました平成 21 年 6 月期第 2 四半期累計期間（平成 20 年 7 月 1 日～平成 20 年 12 月 31 日）の連結業績予想並びに平成 20 年 8 月 27 日に発表いたしました平成 21 年 6 月期第 2 四半期累計期間の個別業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 平成 21 年 6 月期第 2 四半期末における投資有価証券評価損

	単体	連結
(A)平成 21 年 6 月期第 2 四半期会計期間（平成 20 年 10 月 1 日から平成 20 年 12 月 31 日まで）の投資有価証券評価損の総額（＝イーロ）	5 百万円	130 百万円
(イ)平成 21 年 6 月期第 2 四半期累計期間（平成 20 年 7 月 1 日から平成 20 年 12 月 31 日まで）の投資有価証券評価損の総額	5 百万円	389 百万円
(ロ)直前四半期（平成 21 年 6 月期第 1 四半期）累計期間（平成 20 年 7 月 1 日から平成 20 年 9 月 30 日まで）の投資有価証券評価損の総額	—	258 百万円

※四半期における有価証券の評価方法は、洗替え方式を採用しております。

※当社の決算期末は、6 月 30 日です。

○純資産額・経常利益額・当期純利益額に対する割合

	単体	連結
(B)平成20年6月期末の純資産額	2,750百万円	9,716百万円
(A/B×100)	0.2%	1.3%
(イ/B×100)	0.2%	4.0%
(C)平成20年6月期の経常利益額	△781百万円	△375百万円
(A/C×100)	—%	—%
(イ/C×100)	—%	—%
(D)平成20年6月期の当期純利益額	△1,228百万円	△2,430百万円
(A/D×100)	—%	—%
(イ/D×100)	—%	—%

2. 連結財務諸表における特別損失の発生及びその内容

i. 投資有価証券評価損

上記1.平成21年6月期第2四半期末における投資有価証券評価損に記載のとおり、当第2四半期会計期間におきまして投資有価証券評価損130百万円を特別損失として計上することとなりました。なお、有価証券の評価方法は洗替え方式を採用しておりますので、当期末において時価あるいは実質価額が回復した場合には当第2四半期累計期間までに計上した投資有価証券評価損は減少することとなります。

ii. ネットワーク機器障害対応費

(株)イーコンテクト（現(株)デジタルガレージ）において平成20年6月期に発生したネットワーク機器障害に関連し、障害に起因して接続先で発生した費用の一部を負担することから53百万円を特別損失として計上することとなりました。

なお、同障害の原因究明と機器強化対応は平成20年6月期に完了しております。

3. 個別財務諸表における特別利益及び特別損失の発生及びその内容

(1) 特別利益

i. 抱合せ株式消滅差益

当第2四半期会計期間におきまして、グループの再編に伴い(株)イーコンテクト等の子会社5社を合併いたしました。

これに伴い、(株)イーコンテクト、(株)クリエイティブガレージ及び(株)DGメディアマーケティングとの合併により919百万円を抱合せ株式消滅差益として特別利益に計上することとなりました。

## (2) 特別損失

### i. 抱合せ株式消滅差損

上記のとおり、当第2四半期会計期間におきまして、グループの再編に伴い子会社5社を合併いたしました。

これに伴い、(株)DGソリューションズ及び(株)ディージー・アンド・アイベックスとの合併により468百万円を抱合せ株式消滅差損として特別損失に計上することとなりました。

### ii. ネットワーク機器障害対応費

上記のとおり、(株)イーコンテクト(現(株)デジタルガレージ)において平成20年6月期に発生したネットワーク機器障害に関連し、障害に起因して接続先で発生した費用の一部を負担することから53百万円を特別損失として計上することとなりました。

なお、同障害の原因究明と機器強化対応は平成20年6月期に完了しております。

## 4. 平成21年6月期 連結業績予想の修正等

### (1) 第2四半期連結累計期間(平成20年7月1日～平成20年12月31日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
前回予想 (A)	19,350	1,500	1,360	△300
今回修正 (B)	18,051	691	563	△1,255
増減額 (B-A)	△1,298	△808	△796	△955
増減率	△6.7%	△53.9%	△58.6%	—
(参考) 前年同期実績	19,093	△181	△287	△884

### (2) 修正の理由

売上高は、前回予想19,350百万円に対して、18,051百万円となり、1,298百万円(6.7%)の未達となる見込みとなりました。

これは、第2四半期会計期間以降、全般的な企業収益悪化に加え、特に不動産市況の急激な悪化により得意先の広告費の支出が削減されたこと等の結果、不動産広告及びクロスメディアソリューションを展開している子会社(株)DGコミュニケーションズの売上高が前回予想を下回る見込みであることが主因となっております。

また、営業利益は、当第2四半期累計期間は黒字とはなったものの、前回予想1,500百万円に対して808百万円(53.9%)の未達となる見込みとなりました。

これは、子会社(株)カカコム(株)の営業利益は大幅に拡大したものの、内外株式市況の急激な悪化を背景に、インキュベーション事業において投資先の株式上場時期の見直し等の影響により、一部の株式の売却益を計上したものの、当初見込んでおりましたその他の投資収益の計上時期が下期以降となったことによる約200百万円の未達及び保有有価証券の減損損失158百万円を売上原価に計上したこと、並びに(株)DGコミュニケーションズにおいて得意先の倒産による貸倒損失92百万円を計上したこと等によるものです。

経常利益は、当第2四半期累計期間は黒字とはなったものの、前回予想 1,360 百万円に対して 796 百万円 (58.6%) の未達となる見込みとなりました。

これは、営業外損益はほぼ当初見通しでありましたが、上記のとおり、営業利益が前回予想を下回ったためであります。

四半期純利益につきましては、前回予想 300 百万円の四半期純損失に対して、1,255 百万円の四半期純損失となり、955 百万円の未達となる見込みとなりました。

これは、563 百万円の経常利益を計上したものの、上記のとおり投資有価証券評価損 389 百万円等 490 百万円の特別損失を計上するためであります。

### (3) 通期

上記に記載いたしましたとおり、経済環境の悪化は当社グループの業績に与える影響は少なくないものと認識しております。

しかしながら、一方で㈱カカクコム等の業績におきましては、前年実績を大幅に上回る水準で推移しております。

したがって、今後の当社の連結業績の見通しにつきましては、現時点では不透明なところが多いため、通期の業績予想につきましては、平成 20 年 10 月 29 日付で公表いたしました業績予想に変更はございません。

## 5. 平成 21 年 6 月期 個別業績予想の修正等

### (1) 第2四半期累計期間 (平成 20 年 7 月 1 日～平成 20 年 12 月 31 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回予想 (A)	1,500	△180	△280	0	—
今回修正 (B)	1,434	△397	△505	△203	△1,206 円 98 銭
増減額 (B—A)	△65	△217	△225	△203	—
増減率	△4.3%	—	—	—	—
(参考)前年同期実績	209	△275	△352	△420	△2,649 円 99 銭

### (2) 修正の理由

売上高は、前回予想 1,500 百万円に対して、1,434 百万円となり、65 百万円 (4.3%) の未達となる見込みとなりました。

営業利益は、前回予想 180 百万円の営業損失に対して、397 百万円の営業損失となり 217 百万円の未達、また、経常利益は前回予想 280 百万円の経常損失に対して、505 百万円の経常損失となり 225 百万円の未達となる見込みとなりました。

この主な要因は、管理部門の統廃合等、合併効果の発現が計画より遅れていることによるものであります。

四半期純利益は前回予想 0 百万円に対して、203 百万円の四半期純損失となり 203 百万円の未達となる見込みとなりました。

これは 505 百万円の経常損失を計上しましたが、上記のとおり特別利益及び特別損失の計上によるものであります。

(3) 通期

通期の業績予想につきましては、平成 20 年 8 月 27 日付で公表いたしました業績予想に変更はございません。

以上